

# EVで価格競争に活路

## 風 巻き起す

挑戦する経営者たち

< 5 >

なつ・まさき 1970年、長岡市生まれ。長岡向陵高卒。東京の運送会社勤務などを経て、95年に運送会社の「藤深商事」を設立。2007年に社名を「藤深ライン」に変更した。

運送会社社長 佐藤正樹さん(40)

## 業界トップ切り導入

「3年後をめどに、2社に届いた切り花や鉢植えを、EVの軽ワゴン1台がJR長岡駅ビル内の生花店に毎日届ける。さ

佐藤正樹さん(40)は7月、運送業界で初めてEVを使った輸送を始めた。東京から長岡市の会



切り花などを運ぶEVの軽ワゴンを充電する佐藤正樹さん(長岡市笹崎1の「藤深ライン」本社営業所)

は津南町産のトウモロコシなど主に食品を運ぶ。業界で厳しい価格競争が続く中、EV導入は「排ガスを削減できると同時に、他社との差別化を図る唯一の手段」という確信を深めつつある。

乗せたいと告げてくるケースも多い。今、EV輸送のネットワークづくりに向けて動き始めている。EVは充電に時間がかかることなどがネック。米国のベンチャー企業が、フル充電したバッテリーに約1分で取り換えられる電池交換ステーションを開発し

7年前に始まったディーゼル車の規制だ。新車への入れ替えなどを進めていた約2年前、知り合いで改造EVの普及を目指す長岡市の本田昇さん(63)と話すうちに「貨物のEVを造ろう」と思い立った。

ドライバー教育や車両の管理システムの整備など、会社のレベルアップ

は、数百万円規模の投資が必要となる。経営リスクは小さくないが、それ以上にEVに関心を持つ企業の多さに驚いている。

大手スーパーや医薬品会社などから問い合わせが相次ぐ。輸送料に加えて、EVで運ぶ付加価値分を広告宣伝費として上

ており、このステーションを長岡市に誘致したいと考えている。

40年先まで夢を書き込んだドリムマップが、社長室の壁に張っている。「人に会えば会えば、やりたいことが出してくる。若きパイオニアは、数十年後まで見据えている。(おわり)